

高 島 市 統 計 書

令和6年(2024年)版



高 島 市

市民憲章

私たち高島市民は、びわ湖にそそぐ清らかな水と美しい緑を身近に感じつつ、自然とかかわりあう暮らしを大切にしてきました。また、古くからの歴史に培われた豊かな文化は、私たち市民の誇りでもあります。

私たちは、このかけがえのない財産を次の世代に伝えとともに、将来を担う子どもたちを大切に育みながら、時代の変化に対応した新しい暮らしを創造していく必要があります。

ふるさとに愛着と誇りが持てる、「誰もが住みたい、住み続けたい高島市」の実現をめざして、市民みんながそれぞれの立場で次のことに取り組みます。

豊かな自然とともに生き 里山の恵みを守ります

歴史と文化を深く知り 新たな学びにつなげます

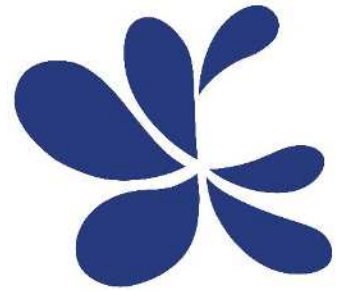
世代を超えて絆を深め よりよい暮らしに活かします

互いの個性を認めあい 誰もが住みよいまちをつくります

地域の産業を大切に さらなる挑戦をめざします

市 章

花をモチーフにし、6町村をそれぞれ1枚の花びらに見立て、各花びらは、地図上の6町村の位置と対応しており、このデザイン全体で「高島市」を表しています。6町村が合併することで、互いに協力し合い、大輪の花が咲くように発展して欲しいという願いを込めて、6枚の花びらが一つの花を咲かそうとしている姿を表しています。



市の花 カキツバタ

カキツバタは水湿地に群生し、5月から6月にかけて紫色の花をつけます。市内の湿地帯や沼などに多く自生し、また、栽培されているものもたくさん見られます。

花のつくりは内花被片3枚、外花被片3枚の計6枚からなり、6町村の合併により誕生した市の成り立ちを後生に残すとともに一体感の醸成を図ります。また、万葉の時代から文学・芸術の題材にもなっています。

これらのことから、6地域の協調性と文化を深めていこうとする姿を表します。



市の木 サクラ

サクラは、市内に名所が多く存在し、市民の保全活動も活発に行われるなど、市民の心のよりどころであり、自然環境を守り育てていこうとする気概を表すものです。

市内に自生するサクラの種類も豊富で、植え付けられたものも多く、人々を魅了する様子は、明るく希望に満ち、人が行き交い栄えるまちのシンボルと、また、長寿のサクラは、市の持続的な発展と市政や市民活動の継続性を目指す姿勢を表します。



市の鳥 ヒバリ

ヒバリは、市内の農耕地に多い鳥で、早春から夏にかけてピイピイピイ、ピチクリピチクリとさえずりながら翼を早く羽ばたかせて、空高く舞い上がり、一気に舞い降りてくる様子を見ることができます。

「揚げ雲雀」と呼ばれる高い所を目指して飛ぶ姿に、高い理念を掲げてその実現を目指す市民の行動規範を表します。また、農耕地によく見られることから、農業の振興や美しい田園風景を保全する姿勢を表します。

